

「SDGs 総選挙」の実践報告

—SDGs を争点とした主権者教育—

第 2 学年 小田原健一

第 2 学年では現在、「SDGs 総選挙」と題して、SDGs を主要な争点とした主権者教育を実践している。実践の目的は SDGs (Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標) に関する探究活動と主権者教育を融合させることで、両者の魅力を高め、より効果的な授業を実現することにある。本稿では、まだ活動の途中ではあるものの本実践の概要と今後の展望について紹介する。

<キーワード>主権者教育 SDGs 高校生の社会参画 総合的な探究の時間のあり方

1. はじめに

本校では選挙権を得る年齢が 18 歳以上に引き下げられた平成 28 年度より主に総合的な探究 (学習) の時間において本格的に主権者教育を実践している。平成 28 年度の最初の実践はまさに当事者となった第 3 学年で行ったが、教育課程上、理系クラスの生徒が十分な主権者教育を受けられないこと、早期に実施した方が効果的と考えられたことなどから同年度末には第 2 学年でも実施し、以降は原則的に学年主導で第 2 学年が主権者教育を実施してきた。

2. 実践にむけて

今年度の第 2 学年では、筆者 (小田原) と学年主任 (川上) が中心となって、SDGs を主要な争点とした主権者教育の実践について 10 月頃から検討を重ねてきた。当初は生徒達が政党を結成した上で、地方選挙か国政選挙を舞台に SDGs の 17 分野の目標をどう達成するかを提案させることを構想していた。また、実現可能な政策を提案させるためにも具体的な達成方法だけでなく、財源や達成期限を明記したマニフェストを作成させることとした。しかし、この構想段階で、自治体や国の政策、そして巨額の予算を一人一人の生徒が自分達に深く関わる事だと実感できるかという不安がよぎった。実際、過去の ESD (Education for Sustainable Development) や SDGs に関する探究活動に対して積極的に取り組めなかった生徒達からは「現実味がなかった」「自分達ではどうしようもない」といった意見も寄せられていた。このような不安を抱えて 12 月初旬に愛知教育大学社会科教育講座の真島聖子准教授にご助言を頂く機会を設定してもらった。この打ち合わせの場で真島先生から「舞台を学校にした方が、生徒の皆さんが自分達との関わりを実感できるのではないか」というご提案があり、本実践を SDGs の 17 分野の目標を通していかに持続可能な学校や社会を作っていくかを提案させる活動とする構想が固まった。また生徒の家庭から徴収している PTA 会費を主な財源とすることで、より自分事と捉えさせることを検討し始めた。図 1 は実践前に学年団の先生方に提案した要項である。

第2学年 総合的な探究の時間について（12月8日 担任会資料）

1 名称 SDGs 総選挙

2 目的

SDGsに関する探究活動と主権者教育を融合させることで、両活動をより効果のあるものとするため。
（※なお、今回の活動ではSDGsの目標を達成するために、学校をどう変革するかを生徒に考えさせます。）

3 実施予定（全8回予定）

（1）第1回 「ガイダンスと政教作り」

※ガイダンスzoom（小田原、川上）、政教作りは各教室（正副担任）

①ガイダンス（別紙/ワポに基いて実施）

・アンケート（別紙）活動後にも同じアンケートを実施します。

・政治や選挙について

・SDGsについて

17分野の目標から興味のあるものを3つ選ぶ

・SDG総選挙について

・今後のスケジュール説明

②政教作り

・政教総成（同じ目標を選んだ者同士が望ましい）※3つとも一致はしないので、話し合ってから

（4名以内、1人でも無所属として活動可）

・政教総提出

（※時間があれば政教立案開始）

（2）第2回～第5回 「政教立案」 全4回予定（昨年度の3年世界史Bでは卒業直前の2回で立案）

※各教室で実施

・選んだSDGsの目標3つについて、達成方法を考える。（期限、財源、具体策を提示）

・次の目玉となる政策について、達成方法を考える。（期限、財源、具体策を提示）

※財源のヒントとしてPTA会費に関する資料を示します。

評定する政策は合計4つ※これが投票の基準

【備考】各々が作成したマニフェストをiPadで写真にとって、プロジェクトで提示できるようにする
余裕があれば自由なポスターを作成させることも検討しています。

（3）第6（7）回 「クラス内演説と投票」 ※各教室で実施

・作成したマニフェストをプロジェクトで提示しながら発言を中心に演説

・演説時間は4分

・4つの政策に基づいて投票

※4つの政策全てが自分の理想と一致するわけではないが、政策の実現可能性などを基準に投票
（実際の選挙と同じ）

【備考】投票後（可能な授業内で、開票し、クラス代表を決定）

この際、クラスの代表政教の政策を基に学年演説に

（4）第7（8）回 「学年演説と討論会と投票」(体育館)

・各クラス代表の5政教による演説（3分）20分

・討論会（協力者に愛教大社会科学部経済学部の真島先生とゼミ生、） 討論会 15分

・前同席、4つの政策に基づいて投票 15分

【備考】投票時や記入台は刈谷市選管から借りる

投票所の立ち合い人や開票係は普通選挙の生徒から募集しておく

第一党の党員は（校長先生の了承が得られれば）校長先生に後日、政策を提案

※生徒が自分事と捉えて活動できるようにするため、国政や地方政治ではなく、舞台を本校としました。

※SDGsの目標を達成するため、自分は何ができるか、学校はどうあるべきかを提案させたいと思っています。

図1 要項

この資料に基づいて授業を行っている

全8回の実施計画中、本稿執筆段階で実施済みの第3回目の授業までの概要をまとめる。

今年度、本校では新型コロナウイルス感染予防のため、体育館での式典、全校集会は行っていない。一学年約 200 名が体育館に集まることは認められているが、各学年とも数回集まった程度で、学年集会もビデオ会議アプリ Zoom を使用することが多くなっている。この流れに沿って本実践の第 1 回目前半のガイダンスは Zoom を利用した。図 2 はガイダンス時に教室で生徒に配付した本実践のテキストの抜粋であり、この他にパワーポイントの資料や動画を Zoom を通して生徒に視聴させた。

第1回 (12月10日 (木)) ーガイダンスと政党作リー

【ガイダンス】

(1) クラッシーのアンケートに答えよう

(2) 政治や選挙について

メモ

＊詳しくは『私たちが拓く日本の未来』P4～5を読んでみてください。

(3) SDGsについて

①なぜ必要なのか

②17分野の目標と169のターゲットについて

メモ

③17分野の目標から、自分が大切だと思もの、興味があるものを3つ選ぼう。

例 (1) (貧困をなくそう)

() ()

() ()

() ()

() ()

(4) SDGs 総選挙について

メモ

図2 テキストの1ページ目
ガイダンスで使った

図2にある通りガイダンス時にはアンケートを実施した。図3はこのアンケート結果をまとめたもので、活動終了後に同じアンケートを再度行い、本実践の成果を検証する予定でいる。

設問 1 政治や選挙に 関する興味が ありますか	ある 17 人 (9.1%)	ややある 78 人 (41.9%)	どちらでもない 32 人 (17.2%)	あまりない 40 人 (21.5%)	ない 19 人 (10.2%)
設問 2 政治や選挙に 関する知識が ありますか	ある 2 人 (1.1%)	ややある 42 人 (22.5%)	どちらでもない 39 人 (20.9%)	あまりない 86 人 (46.0%)	ない 18 人 (9.6%)
設問 3 18 歳になると 選挙での投票 権が与えられ ることを知っ ていましたか	知っていた 184 人 (99.5%)	知らなかった 1 人 (0.5%)			
設問 4 18 歳になっ たら選挙で投票 に行きますか	行く 67 人 (35.8%)	多分行く 68 人 (36.4%)	わからない 38 人 (20.3%)	多分行かない 11 人 (5.9%)	行かない 3 人 (1.6%)
設問 5 SDGs に関す る興味があり ますか	ある 20 人 (10.9%)	ややある 82 人 (44.6%)	どちらでもない 38 人 (20.7%)	あまりない 29 人 (15.8%)	ない 15 人 (8.2%)
設問 6 SDGs に関す る知識があり ますか	ある 4 人 (2.2%)	ややある 85 人 (45.7%)	どちらでもない 58 人 (31.2%)	あまりない 35 人 (18.8%)	ない 4 人 (2.2%)

図 3 アンケート結果

特に政治や選挙について興味はあるものの知識に
ついては自信がない傾向があることが判明した。

平成 28 年度に 3 年生（文系クラス 120 名）を対象に行ったアンケートでは、選挙や政治に対する関心について、「ある 16 名・少しある 20 名・どちらでもない 4 名・あまりない 38 名・ない 42 名」という回答結果であったので、この学年の生徒達の関心の高さが窺える。この理由については検証が難しいが、一因として有権者年齢の引き下げがあるのかもしれない。

Zoom によるガイダンス中に生徒達には SDGs の 17 分野の目標から興味のあるものを 3 つ選択させ、テキストに記入させた。ガイダンス終了後には各 HR 教室で担任の支援のもと、要項に沿って同じ目標を選んだ者同士が集まることを原則に政党作りを行った。次の図 4 は活動中の生徒達の様子である。



図4 生徒の活動の様子

適宜、教員が支援しながら政党を結成した。

(2) 第2回(12月17日)「政策立案1」

この日から本格的な政策立案に取り組んだ。冒頭の10分ほどは、前回同様にZoomを利用して政策立案上の注意点を全体に周知した。強調したかった点は、財源、達成期限を示して実現可能な政策を提案し、SDGsの目標を通して本気で魅力的な学校作りを目指してほしいということである。図5は生徒に配付した資料の抜粋、図6はZoomを通して示したマニフェストの記入例の抜粋である。

【SDGs総選挙 マニフェスト作成について】

今日から各党の政策立案が始まります。与えられた時間は4週間で、テキストの通りの日程で進めていきます。このSDGs総選挙は、架空の政策を練って模擬投票をする活動ではなく、**実行可能な政策を練って現実的な投票をする活動**です。実行可能な政策にするためには、具体的な達成方法を示すことは当然ですが、**財源、達成期限を示す**必要があります。財源については、以下の資料を参考にしてください。資料は昨年度のPTA会費など(皆さんの家庭から集めた会費)の決算報告の抜粋です。学校にはこの他の財源もありますが、まずはこの資料を参考に、どう財源を生み出すかを考えてください。もっと財源が必要な政策を提案したい場合は、どうやって財源を確保するのが提案してください。

政策がある程度まとまったら、**担任の先生からマニフェスト記入用紙をもらい、必要事項を書き込んでください**。演習は、マニフェストをプロジェクトでホワイトボードに映しながら行います。**演習の時間はクラス内では各党4分、学年全体では各党3分+討論会を予定しています。**

* 資料 (PTA 総会資料より抜粋、一部表記を改めています)

【PTA会費決算報告】

収入		(単位:円)
収入	決算額	備考
繰越金	1,816,016	
会費	3,540,000	1世帯あたり毎月500円を徴収
計	5,356,016	

支出		(単位:円)
支出	決算額	備考
事務運営費	1,013,410	人件費
会議費	31,814	PTA関係会議
印刷通信費	622,635	広報誌(建文)・校誌(碧海野)
消耗品費	3,266	事務用品
研修活動費	740,666	芸術鑑賞会棟立
組織活動費	585,521	PTA活動費
旅費	327,427	PTA関係出張費
図書費	0	PTA関係書籍
慶弔費	41,238	弔電
予備費	0	
繰越金	1,990,039	令和2年度へ繰越
計	5,356,016	

* 裏面にも別資料あり

図5 配付資料

財源の参考資料としてPTA総会の配付資料を示した。
裏面には周年行事積立金の報告箇所などを載せている。

(つむぎね) 党マニフェスト

＊我が党は以下のように学校を変革し、持続可能な学校や社会を作っていきます。

☆SDGs (4) (質の高い教育をみんなに)

達成方法 (学校をこのようにします)

イチローを監督に招いて強い野球部を作ります

財源 (7,000,000 円)

財源確保方法

周年行事基金を活用

期限 (令和 4 年 4 月)

☆目玉政策 (通学しやすい学校を作ります)

達成方法 (学校をこのようにします)

附属高校を知立駅前に移転させます。

財源 (1 億 円)

財源確保方法

・在校生から一人あたり 1 万円を徴収します

・募金集め

期限 (令和 5 年 4 月)

図 6 マニフェスト記入例の抜粋

実際には生徒達に財源確保方法を含めて実現可能な政策を 4 つ提案させている。

(3) 第 3 回 (12 月 24 日) 「政策立案 2」

この日を含めて残り 3 回の授業で生徒達はマニフェストを完成させ、クラス内での演説及び投票、その後の学年全体での演説及び投票に臨む予定である。図 7 は活動中の生徒達の様子である。



図 7 政策について話し合う生徒達

舞台を学校に設定したことが積極的な姿勢に繋がっている。

4. 今後の実践予定

本稿執筆後、政策立案にかける時間を2時間設けている。ここまでの準備段階を経て、1月21日と28日の2回に渡って教室でのクラス内演説と投票、2月4日に体育館での学年演説と投票を予定している。演説はマニフェストを教室でも体育館でもスクリーンに投影させて行い、体育館での学年演説には各クラスで最も支持を集めた代表政党5党が臨む。学年演説は本実践にご助言を頂いた真島先生とそのゼミ生にも参加してもらい、さらに演説を行った生徒達への質疑を含めた討論会を設定したいと考えている。なお、刈谷市選挙管理委員会のご協力で投票箱や記載台などの道具をお借りするので、投票する生徒達にも臨場感を感じさせることができると願っている。

5. 今後の展望

まだ途中段階ではあるが、生徒達はこちらの想定以上に意欲的に取り組んでいる。この要因は舞台を学校に設定したことで、多くの生徒が自分事と感じて活動しているからであろう。

ところで筆者は一昨年頃より真島先生から高校生の社会参画や、そこに繋がる授業の重要性を示唆してもらっている。本実践をその出発点とし、来年度は本校所在地の刈谷市または愛知県を舞台にSDGsの17分野の目標を通して、持続可能で魅力的な自治体にするための提案を生徒達にさせることを構想している。自分達の学校をどう変革するかを考えた経験を活かして、自分達の街をどう変革するかを自分事として捉えられたら、社会参画に繋がれるのではないだろうか。

本実践と来年度の構想を実りあるものにできれば、例えば1年次に学校を舞台としたSDGs総選挙、2年次に自治体を舞台としたSDGs総選挙、3年次に国あるいは世界に向けてSDGsの達成方法発信というように3年間を通じてSDGsを軸に総合的な探究の時間をより充実させられる可能性も感じている。

6. 謝辞

本実践の構想段階からご協力を頂いた学年主任の川上先生をはじめ、学年団の先生方の適切な支援・指導により、生徒は順調に活動できています。先生方のご協力に感謝しております。

最後になりましたが、愛知教育大学社会科教育講座の真島先生から、舞台を学校にするという貴重なご助言を頂き、これが生徒達の意欲を高めることになりました。その後もゼミ生の参加など多くのお力添えに、この場を借りて、お礼申し上げます。ありがとうございました。

7. 参考文献

総務省・文部科学省 『私たちが拓く日本の未来—有権者として求められる力を身につけるために—』
(2015)

村上芽・渡辺珠子(2019)『SDGs入門』、日経文庫

小田原健一ほか(2017)「主権者教育の実践報告—生徒の活動を重視して—」『本校研究紀要第44号』